

資料提供(投げ込み) 平成30年6月14日(木)	
場所 津市政記者室	
事務担当課	
所 属	職・氏 名
市民部 地域連携課 (電話059-229-3110)	地域連携課長 川原田 吉光

## 平成30年度市民活動推進事業 市民セレクションの開催について

本市では、主体的にまちづくりに参加する市民の皆さんを支援するため、「市民活動推進事業交付金」を交付し、市民活動の推進を図っています。

本年度は7団体からの事業提案がありました。つきましては、これらの事業についてプレゼンテーションを行い、提案者同士に加え市民活動関係者等により審査を行う「市民セレクション」を下記のとおり開催します。

### 記

- 1 日時  
平成30年6月17日(日) 9時～12時
- 2 場所  
津市役所本庁舎8階 大会議室A
- 3 内容  
市民活動推進事業の各部門に提案のあった事業について、提案者自らプレゼンテーションを行い、市民活動関係者、自治会関係者など4名からなる「一般選考委員」に加え、提案団体の各1名ずつが選考委員となる「提案者選考委員」らが審査を行うことで交付金の交付対象事業を選考します。
- 4 市民活動推進事業について  
市民活動推進事業とは、地域の課題解決や活性化などを目的とする公益的な活動に自主的に取り組む自治会や市民活動団体、また、これから市民活動団体をつくろうとしている方々などを対象に、その活動などに要する経費の一部を支援し、市民活動のさらなる推進を図ろうとするもので、次の2つの部門があります。
  - (1) 市民活動推進部門
    - ア 応募資格  
市内において自主的な活動をしている自治会や市民活動団体（個人による活動を除く）ただし、政治活動、宗教活動または営利を目的とする団体（関連団体を含む）、国や他の地方公共団体から補助金などの財政的支援を受けている団体、過去に5回以上市民活動推進交付金を交付された団体は除きま

す。

イ 提案団体（6団体）

- ・NPO法人チーム・さくら（新規）
- ・津うのドまんなかジャズ実行委員会（2回目）
- ・河芸町千里ヶ丘地区社会福祉協議会（3回目）
- ・母子ケア習得実践BR会（2回目）
- ・伊勢本街道奥津宿を活性化させ隊（新規）
- ・名松線を守る会（5回目）

ウ 交付金額

対象経費の2分の1の額で、20万円を限度

(2) 支援活動団体設立等支援部門

ア 応募資格

市内に活動の拠点を置く、次の団体。ただし、政治活動、宗教活動または営利を目的とする団体（関連団体を含む）、国や他の地方公共団体から補助金などの財政的支援を受けている団体は除きます。

- ・本年度内にNPO法人の設立登記が完了する予定の市民活動団体
- ・市民活動団体を設立しようとするもの、または、設立後1年を経過していない市民活動団体（個人による活動を除く）

イ 提案団体（1団体）

いちしもりもり会（平成30年4月設立）

ウ 交付金額

対象経費の2分の1の額で、10万円を限度

発表順	団体名	団体代表者	事業名	特定非営利活動促進法第2条別表に掲げる活動	目的	概要・内容	事業効果	事業費	収入内訳	支出内訳	助成金充当予定内訳
1	NPO法人 チーム・さくら	郡山 方正	ドローンを用いた災害情報等収集・表示システム	⑧災害救援活動 ⑨地域安全活動	<p>1 背景及び現状の課題 昨今、地震及び風水害等の自然災害による人命・建造物の被害が多発傾向にあり、迅速・正確な被害情報の収集・伝達の重要性が指摘されている。 しかしながら、自衛隊、警察・消防及び報道機関等、公的機関による収集努力にも能力的・時間的・空間的に限界があり、特に発災直後における現地の詳細な情報を迅速に伝えることが困難とされ、救助・救援活動に遅れが生じることが懸念されている。 特に、大規模災害では公助活動の優先順位は、被害の程度、人口の密集度により左右されることは否めない。このため、過疎地における初動対応は現地住民による自助・互助活動が主体とならざるを得ないが、現地住民による局地的な情報収集能力は、地上からの目視に依存するため、被害の全般を把握し、又二次災害の危険性を把握することは極めて困難である。</p> <p>2 事業目的 活動概要(5)項の「災害救援活動」の一環として、災害発生時における被災状況を、ドローンを用いて空撮することにより、地上からは近づけない地域、及び地上撮影では時間的・空間的に制約される地域の画像・映像を収集して、迅速・的確な救援活動実施、又はその支援・補完に資することを目的とする。</p>	<p>1 本事業は、システムを構築して無線操縦無人飛行物体のドローンを活用し、主として地震及び風水害発生時における比較的狭範囲（概ね半径2km）の地域を迅速・正確に空撮することにより、被災状況及び救急・救命・救護に必要な映像情報を収集・提供するものであり、これを取得して有事に備えた操縦手の育成及び運用方法の研究などを早期に整備・確立する。 本事業の実施に当たり、国立鳥羽商船高専校の江崎教授以下が開発した「みつばちず」プログラムの使用に関する支援を受ける。</p> <p>2 事業日程（月別） 4月 事業に必要な研究・調査 5月 鳥羽商船高専校 江崎教授の支援取付 6月 津市に対する本事業交付金提案及び申請 7月 購入機器の発注 8月 機器納入完了 9月 機器初期設定、「みつばちず」プログラムのインストール 10月 動作試験 11月 操縦者教育・訓練 12月 マニュアル案の作成 1月 防災訓練等への参加打診・調整・展示 2月 完熟訓練（マニュアルの補備修正） 3月 完熟訓練（マニュアルの完成） 4月 広報 5月 事業報告</p> <p>3 参考 本事業のソフトウェアは、鳥羽商船高等専門学校が、平成28年度の「全国高等専門学校 第27回プログラミングコンテスト」において見事“最優秀賞”を受賞した「みつばちず」と称するドローンを用いた防災減災地図作成システムを利用して、狭地域・低高度で自動航行するドローンから上空映像を撮影して、被害マップを自動作成するもの。 人が地上からでは接近できない状況を克服して、軒下の被害者を発見することも期待できる。</p>	<p>1 直接的効果 元自衛隊員で組織する本会は、災害派遣活動の経験者及び防災士資格者を有し、防災・減災活動のノウハウを熟知した集団で有り、本事業による上空からの映像情報により迅速・的確な救援活動実施に効果がある。</p> <p>2 間接的効果 (1) 本事業の活用範囲として、平時における防災訓練等の場において住民へ普及することで、安心感の付与及び防災・減災への努力の助長・促進に効果が期待できる。 更に、応用範囲として、道路交通、警備・警護・保安、消防、安全救護にも利用できる多用途性を有し、公助におけるドローンの活用検討を促進する効果を期待できる。 (2) ドローン一式の取得費用は約18万円、付属する3個のバッテリーを交換運用すると約60分の飛行が可能である。 これは、陸上自衛隊が保有するヘリコプター映像伝送システム（中部方面隊（2府14県を担任区域）で1式保有。）と比較した場合、費用面で著しく安価であるとともに、在空中時間（大阪市の飛行場から離陸して津市上空に滞在できる時間）においても勝っている。</p>	696,449円	市交付金 200,000円 引当金 496,449円	保険料 8,240円 備品購入費 465,620円 通信運搬費 171,000円 消費税 51,589円	◎備品購入費 200,000円 収集装置に係る経費 の合計230,620円(税 抜き) ドローン本体、プロ ペラ・ガード、コン トロールスティック・プロテクター、 送信機装着用モバイ ル・デバイス

平成30年度市民活動推進事業 提案事業概要  
市民活動推進交付金（8事業）

発表順	団体名	団体代表者	事業名	特定非営利活動促進法第2条別表に掲げる活動	目的	概要・内容	事業効果	事業費	収入内訳	支出内訳	助成金充当予定内訳
2	津うのドまんなかジャズ実行委員会	鶴飼 仁	第4回津うのドまんなかジャズフェスティバル	③まちづくりの推進を図る活動 ⑥学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動	津市の中心市街地活性化事業「津うのドまんなかバル」と共催で開催することで、空洞化する津市の中心市街地を、バルが「食」で街を盛り上げ、音楽を愛する人たちが集まったジャズが、「音」で街を彩り、活性化に寄与します。	津市・大門シネマを含む6箇所でのジャズライブを開催します。 今年度より大門商店街のあーけーをがなくなったことに鑑み、今がこれからの大門のあり方を考える時期であるとして、ミュージシャンの柔軟な発想で大門の活性化に協力できるフェスティバルを実施します。 また、大門シネマなどの旧施設の有効利用の一助にもなればと考えます。	津うのドまんなかジャズフェスティバルを津市の中心市街地活性化事業「津うのドまんなかバル」と共催で開催することで、街の活気の一助となることを目指します。 また、津市の音楽文化促進にも役立てばと考えます。	700,000円	市交付金 200,000円 協賛金 300,000円 チケット収入 150,000円	賃借料 50,000円 設営費 250,000円 広報費 100,000円 報奨費 250,000円 保険料 5,000円 予備費 45,000円	◎設営費 200,000 津シネマ・その他会場設営費
3	河芸町千里ヶ丘地区社会福祉協議会	峯田 薫	千里夏祭り	③まちづくりの推進を図る活動	千里ヶ丘団地は開発されて50年を経過し、それに伴って高齢化が進み、1/3以上が65歳以上を超えて、少子高齢化現象に陥り、活力の乏しい街になりつつあります。また、当地区は外国人の方も多く住み、過去には文化の違いから、ルールなどのトラブルが発生していました。 千里ヶ丘団地の西側に、平成9年杜の街が造成され、現在約1000戸が居住されており、新旧の団地が連携して地区社協が形成されております。 ① 住民の絆を強め、地域の活性化を図る。 ② 誇れる故郷としての千里ヶ丘・杜の街を目指した夏祭りを開催します。	【日時】 平成30年7月28日（土） 16:00～21:00 【場所】 千里ヶ丘「さつき通り」を歩行者天国として、メイン会場 【出し物】 エレキバンド・よさこい踊り・高虎太鼓・商工会・老人会踊り 【屋台】 金魚すくい・スーパーボール・綿菓子・かき氷・たこ焼きなど 【その他】 津市のマスコットの「シロモチくん」「江ちゃん」にて津市のPR。 子ども達の思い出作りとして、今年初めて「子ども神輿」を新たに追加した。屋台の販売金額を全て100円に固定して、不足分は地区社協で負担している。	① 地区社協が運営するシルバーカフェ3ヶ所と「ふれあいセンター」への来客数の増加が期待できる。 ② 小学生からの要望の「子ども神輿」を取り入れることで、小学生本人とその保護者及び小学校との絆の強化の期待が出来る。 ③ これまで10年間の子どもの成長を確認と同時に、育った子どもが中学生・高校生が、準備する高齢者をみてリスペクトの期待が出来る。 ④ 「シロモチ君」と「江ちゃん」の中に入る朝陽中学生に、貴重な思い出を提供できる。 ⑤ 住民に対して、地区社協への理解がさらに深まる期待ができる。 ⑥ 千里ヶ丘団地の県営アパートには、外国人が多数居住されており、更なる交流が期待できる。	1,260,000円	市交付金 200,000円 千里ヶ丘地区社協自主財源 760,000円 屋台販売収入 300,000円	屋台販売商品購入費 600,000円 音響他レンタル費用 300,000円 演目者及び司会謝礼 150,000円 仮設電源工事等 210,000円	◎屋台販売商品購入費 95,238円 ◎音響他レンタル費用 47,619円 ◎演目者及び司会謝礼 23,810円 ◎仮設電源工事等 33,333円

発表順	団体名	団体代表者	事業名	特定非営利活動促進法第2条別表に掲げる活動	目的	概要・内容	事業効果	事業費	収入内訳	支出内訳	助成金充当予定内訳
4	母子ケア習得実践BR会	宮田 実希	母子ケアに携わる者への知識・技術習得支援事業	①保健、医療又は福祉の増進を図る活動	母子（妊産褥婦と赤ちゃんを育てる母親、そして新生児から主に乳児までの児）の健康を身体・精神・社会の視点から支えることを目的とする。そのために、それらに携わる者の学習の機会の充実を図る。	<p>①【妊婦・褥婦・子育て世代に向けたセミナー及びケア提供の場の開催】 昨年度一年掛け幅広くじっくりと習得してきた専門的知識・技術を、そのステップアップとしてアウトプットする場を設け、実直に母子へと還元していく会合を企画する。当会開催の特徴・他サークルとの違いとして、母子にとっての安らぎ・和みの場、そしてハイクオリティのサポートを受けることが出来る場であるのと同時に、支援者にとって専門知識を大いに発揮できる学びの場であるという点である。具体的内容として、発達支援のコーチングを活かした身体を使った母子愛着形成の講座、ママが元気になるメンタルサポート講座。</p> <p>②【新生児の蘇生練習会の定期開催】 主に周産期医療に携わる者を対象に、新生児蘇生法講習会を月に一回程度定期開催することによって、常に安全に赤ちゃんを助けることが出来る技術のトレーニングを「自然と身体が動くレベル」に維持する。昨年度の交付金にて練習機材を購入出来たため、ほとんどコストを掛けずに練習を行うことが可能となった。昨年度、定期的な練習によって「児の蘇生に関して、明らかに施設での安全性が向上した」と参加者より評価を得ており、今後これを持続、更に向上できるよう努める。また、これまで参加のない津市内の他施設へも引き続き招待状の発送などにより誘い、連携による安全・安心の向上に努める。</p> <p>③【検討会・母子のケアについてのセミナー開催】 妊産褥婦・赤ちゃんを育てる母親と、新生児から乳児までの児の、心身ケア（母体救命、周産期メンタルヘルス、新生児ケア、地域連携）について学ぶことができるよう、専門講師を招くなど質の高い学習会・検討会を定期的に開催、それに携わる学習したいと考える者、誰もが学べる場をつくる。</p>	<p>昨今産後うつなど大きな社会問題として取りざたされ、産後ケア事業なども行われているが、限られた施設・限られた一部の人員による介入に過ぎず、まだまだ十分なサポート体制とは言えない。ケア提供者が、施設という枠を越えることで、各々が持つ専門知識や技術は自由な発想を持って周囲への効果を拡大させる。妊婦・褥婦・子育て世代が安心し楽しみ安らげる企画へ、これを活かすことで、双方の充実の回路が形成されると考える。これによって安全で温かいお産、心豊かな産後の子育てを支えることへと繋がる。</p> <p>新生児蘇生法講習会開催によって、それに携わる者の新生児ケア能力と意識が向上し、赤ちゃんのいのちを救うこと・健康を支えることへと繋がる。昨年、練習機材購入によって出生時の赤ちゃんの危機状況想定した、施設を越えた定期的学習の場が実現した。これを継続開催し続けることは母子ケア向上の大きな一歩となる。これは、現在周産期死亡率ワースト・ワンとなった三重県として、自発的で有効な取り組みといえる。</p> <p>妊産褥婦・赤ちゃんを育てる母親と新生児から乳児までの児の心身ケアを学ぶ場として、学習したいと考える者が分け隔てなく学べる場をつくることで、幅広い者がこれらについての知識を持つことが期待される。市全体の母子ケア意識向上へもインパクトを与えると考える。これによって、母子へのサポート力・連携強化が期待できる。</p> <p>津市を中心とした母子ケアに携わる者の連携を深め、知識の共有と技術の向上を目指した協同学習によって、地域全体の母子ケアが向上する。また、ケアに携わる者の生涯学習の場として活性化することにより、いきいきとした母子ケア活動の支えとなる。</p> <p>他県でも市民活動として母子のケアを行なう専門職中心団体が存在し始め、産後ケア事業での利用者の支払い分軽減に交付金を活用するなど行なっている。しかし当会では公益性・永続性を特に大切に、一部の母子のみであったり一時的・表面的な母子の安堵や助けでなく、システムや認識の変容へアプローチし、このサイクルを継続させることによって母子が心身共に豊かである地域の気風として軌道に乗ると考えている。津市から県全体へ、そして他県へ向けてこのシステムのPRを図れると考える。</p>	460,000円	交付金 200,000円 参加費 189,500円 協賛金・寄付等 70,500円	会場借上料 120,000円 報償費 330,000円 消耗品費 10,000円	◎会場借上料 52,000円 ◎報償費 144,000円 ◎消耗品費 4,000円

平成30年度市民活動推進事業 提案事業概要  
市民活動推進交付金（8事業）

発表順	団体名	団体代表者	事業名	特定非営利活動促進法第2条別表に掲げる活動	目的	概要・内容	事業効果	事業費	収入内訳	支出内訳	助成金充当予定内訳
5	伊勢本街道奥津宿を活性化させ隊	牛場 さゆり	ぬしや再生プロジェクト	③まちづくりの推進を図る活動 ④観光の振興を図る活動	江戸時代の雰囲気が残る「ぬしや」を再生することにより、次に揚げることを主な目的とする。 ・昔の街並みが残る伊勢本街道奥津宿への誘客。 ・地域の人々に憩いと集いの場を提供する。 ・生活用品や文化芸術品の展示を行うことにより、地域の歴史を伝承していく。 ・伊勢本街道奥津宿のランドマークにしたい。	【コミュニティスペースづくり】 ・空き家となっていた「ぬしや」をリノベーションし、J R名松線を利用した観光客の方や地域の方向けのコミュニティスペースを整備する。  【イベント開催】 ・ジャズコンサートやJ R名松線写真展などのイベント開催による、伊勢本街道奥津宿のPR。  ・J R名松線の終着駅周辺の施設を整備することで、J R名松線を利用しての来訪者がさらに増えることが期待できる。 ・伊勢本街道奥津宿の目玉施設として定着させることで、観光地としての知名度が向上する。 ・地域の人との交流の場を作ることによって、住民や移住者、各市民活動団体とのコミュニケーション密度が高まり、協力関係が築ける。 ・地域の歴史・文化の振興につながり、津市の知名度が向上する。	580,000円	市助成金 200,000円 自己資金 333,000円 募金・協賛金 50,000円	修繕材料費 400,000円 備品購入費 50,000円 消耗品費 20,000円 印刷製本費 50,000円 報償費 60,000円	◎修繕材料費 180,000円 屋外屋内スペース修繕（整地）費 ◎備品購入費 20,000円 屋外照明・テント等	
6	名松線を守る会	岸野 隆夫	名松線PR・景観整備事業	③まちづくりの推進を図る活動 ④観光の振興を図る活動	美杉町の大自然の美しさのみならず、名松線の車窓からの景観の美しさを本会としてもPRしており、更なる乗車促進のため、沿線の景観整備を積極的に進め、名松線沿線及び各駅周辺の景観整備に取り組みます。 また、三重県内外のイベント時等に名松線の沿線をPRし、継続的に乗車促進を図る事を目的とします。	名松線沿線・駅周辺の景観整備事業として、地域の方々で協力しながら雑草の草刈り、竹木等の伐採、町内に存在する名松線の5箇所の駅周辺を花で飾り、当会が中心となって地域全体で名松線を利用して地域を訪れていただく方々をおもてなししたいと考えています。 また、市内外で開催される各種イベントに参加して、PR物品を活用して名松線の知名度アップを図り、名松線駅周辺の観光資源のPRを継続して行っていくとともに、名松線全線復旧3周年を記念したイベントを開催して名松線の機運を高め、さらなる乗車促進を図りたいと考えています。	「名松線全線復旧」が一過性のものに終わることなく、名松線の永続的な運行を続けるためには、継続した乗車促進に努めなければなりません。景観整備と駅周辺の観光資源PR及び記念イベント開催は名松線の魅力を高め、知名度アップによって、将来にわたる持続可能な名松線の乗車促進に繋がるものと考えています。	408,700円	市交付金 200,000円 自己資金 208,700円	イベント経費 250,000円 花の苗 70,000円 草刈機の刃 60,000円 軍手 6,500円 燃料 8,000円 保険料 7,200円 その他消耗品 7,000円	◎イベント経費 125,000円 ポスター・チラシ印刷製本費、PR物品費（美杉箸等） ◎花の苗 35,000円 ◎草刈機の刃 30,000円 ◎軍手 3,000円 ◎燃料 4,000円 ◎保険料 3,000円
合計								4,105,149円			1,200,000円

平成30年度市民活動推進事業 提案事業概要  
市民活動団体設立等支援交付金（1団体）

発表順	団体名	団体代表者	設立年月日	特定非営利活動 促進法第2条別 表に掲げる活動	団体の活動目的	団体が行う事業の内容	年間事業スケジュール	事業費	収入内訳	支出内訳	助成金充当 予定内訳
1	いちしもりも り会	後藤 卓也	平成30年4月9日	③まちづくりの推 進を図る活動	一志町に住む人々（町民）、働く人々（事業者）、そして一志町（環境）をつなぐことで、一志町全体を盛り上げ、楽しく暮らせる活気にあふれた町を創ること。	①情報発信の手段として一志町の商店・飲食店・施設・名所などを記載した「一志町オリジナルマップ」を作成。町内在住者をはじめ、訪問者・転入者向けにも配布できるように市役所支所やゴルフ場、各店舗に設置する。  ②町内会場を使ったイベントを開催。定期的な開催を目指し、「一志といえぱ〇〇！」と言われるような新しい風物詩を作ることを目標とする。また、その際には町内外から出店を募り、子供から大人まで一緒に楽しめるような、一志町ならではの地域性のある企画を仕掛けたい。	・SNSページ開設 ・オリジナルマップ作成 ・季節感のあるミニイベントの開催（七夕や子供向けの夏休みワークショップ、イルミネーション等）	200,000円	市交付金 100,000円 自己運営金 100,000円	会議／イベン ト消耗品費 20,000円 チラシ、ポス ター等販促物 発注費 50,000円 道具類 130,000円	◎会議／イベン ト消耗品費 10,000円 用紙類、塗料、 文房具 チラシ、ポス ター等販促物発 注費 25,000円 道具類 65,000円 イベント用テン ト、机、椅子、 照明器具
合計								200,000円			100,000円